

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福祉会		
事業所名	大東グループホーム あじさい		
所在地	岐阜県大垣市東前1丁目86番地1		
自己評価作成日	平成24年6月30日	評価結果市町村受理日	平成24年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2010_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172100832-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年8月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看取り支援をさせて頂き、利用者やご家族の思いを大切にしながら支援してきた。小さなことでも相談しながら看取りを経験させていただき、利用者の思いを組んだ最期を迎えて頂くことができた。その思いに寄り添い支援の方法を改めて考えさせられた貴重な機会となった。普段の支援と看取り時の支援は違いはなく、学んだこと、感じたことを業務に取り入れる努力をしている。今まで過ごしてきた一人一人の生活のペースを大切に、居室で過ごす時間も大切にしながら、定期的に外へ出かけられる機会を作り気分転換をしている。地域あつてのグループホームと強く感じ日頃より関わりを積極的に作るように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者も地域の一員として子どもの「見守隊」や「生き生きサロン」に参加し、事業所内のカルチャーホールをいろいろと行事や子ども会などの交流の場として提供し、地域に溶け込んでいる。日常の暮らしの中では、利用者一人ひとりが本人らしさを失わず、安住の場となるようなサービスを提供出来るよう、職員一人ひとりが工夫している。研修に参加したり、同業者との職員交流から得た知識を運営に反映させて、サービスの質の向上に取り組んでいる。利用者の終末期は、かかりつけ医・本人・家族と何度も話し合いながら納得のいく看取りにつなげている。地域と交流し、本人の意志を尊重した介護に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業目標を掲げ毎月の振り返りを行うことで意識して業務に就けるよう心がけている。目標は分かりやすい項目にしている。笑顔で元気に仕事ができるよう挨拶運動をし、地域の方にも積極的に声をかけている。	地域密着型サービスにもとづいた理念を作り、管理者・職員は周知・共有している。その実践のため、年度ごとに具体的な目標を定め、チャレンジシートで出来たかどうかを自己評価している。また、リーダーからの指導・助言を受け、地域とつながりながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、餅つき大会では、地域住民の方と一緒にやっている。地域との関わりが持てるよう小学校や保育園の運動会に招待していただき、出向くことで交流を図っている。	地域住民の参加のもと、事業所の行事を行っている。小学校、保育園、子ども会などからの参加呼びかけには積極的に参加している。利用者は下校時の子どもの見守隊として一役を担っている。年2回、自治会で事業所の取り組みを話し、地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいきサロンや介護予防教室では利用者の方も参加する機会を設けている。資源ごみを集めることで、町内に還元できるよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際に防災訓練を一緒に行い実状や改善点の意見をもらい活かせるようにしている。会議内容については、家族に配布して意見や要望の収集をしている。	運営推進会議では毎回活発な意見や要望がある。意見箱の位置が悪い、子ども用のスリッパがない、庭木の手入れの提案など、頂いた意見・要望は早急に検討しながらサービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議に出席して頂き、いろんな意見をもらったり、流行の話題を聞いたりしアドバイスをもらったりし関係作りに努めている。	市の担当者とは、利用者の受入、住民票の移動、法的制度に対する相談・質問などをして連携を深めている。市の行事も担当者と相談してカルチャーセンターで開催している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないということを職員が理解しケアにあたっている。また言葉での拘束も意識し利用者の言葉を制限してないか勉強会を通じ振り返っている。	身体拘束をしないケアを、職員は研修会などを通じて学習し、家族とも話し合いながら取り組んでいる。職員からの言葉かけが、利用者の行動を制限しないかについても気をつけている。常時、玄関は開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉かけがきつくなったり時には職員同士声をかけ合い、ストレスがたまる前に空気が変えられるよう気を配っている。また、休憩時間をきっちり設けることで気分新たに業務に入れるようにしている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方には、直ちに制度が利用できる支援を整え、家族構成や関わりの頻度を把握し必要があると感じた時には電話で聞いたり、相談している。前もって相談することでスムーズに利用に繋げられるよう配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定の際には全家族様と直接会って説明を行った。不明な点があればいつでも受け付け、ご家族が納得、理解できるまで話し合いをもっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、また行事後にアンケートを行い要望等を聞いている。家族会も開き家族同士が悩みや思いを言い合える機会になるよう努めている。そこで出た意見を大切にシケアの向上に努めている。	家族会や行事ごとのアンケートから意見や要望を把握している。日常は家族の訪問時などで声をかけ、意見・要望を聞きとる努力をしている。利用者も運営推進会議に参加して意見を言っている。その意見もケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体でアンケートを実施し各職員が意見を言える機会をもち反映させている。また随時管理者に提案できるよう会議の時などに声をかけている。	職員には、無記名で運営に関するアンケート調査を実施している。結果を公表し、会議にかけて改善につなげている。提案により、訪問者用の自転車置き場が設置された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時期を見て担当をもってもらうなどやりがいをもって働けるよう配慮している。勤務状況や体調などの変化にも気を配っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する機会をもち、またそれを持ち帰り皆に発表し、共有することで知識を得る、学べるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携事業で他施設と交流する機会を作った。交流することでみえてくる課題や疑問を聞き合うことでサービスの向上に繋げられるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の時点でその人が生きてきた生活の様子を聞き取り、その人らしい生活が送れるよう情報を職員間で共有をしている。生活史リストへの作成を協力してもらい利用者を知る努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の段階から聞き取っている。入居してしばらくは、細目な関わりをお願いしている。細かい事でも情報を共有し関係が深めていけるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の心境を大切にし入居のタイミングは考えている。カンファレンスを行い今後の生活についてじっくり話し合える機会を作っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意なことを教えてもらったり、一緒に考え決定することを大切にしている。利用者同士助け合う姿も多く学ぶべき点である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスに出席していただき不安や意見がないか聞き取っている。利用者の生活を支える為に、家族、職員が一緒になって支援していけるよう対策を話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院やスーパーなどに入居してからも通えるよう利用差の思いを聞き取り、ご家族にもお願いしながら関係が保てるよう支援している。	俳句仲間や同級生などの訪問には居室や和室など気楽に話せる場所を提供している。絵手紙・年賀状をやりとりしたり、同級生や知人には電話を掛けたりして関係の継続支援をしている。墓参りやお見舞いなどは家族に協力を働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	分からず困っている人を見かけると自然に声をかけ助けようとする姿がみられ「危ないよ」「助けたって」と教えられる。利用者同士の助け合いの場を大切にし難しい時にさりげなく手助けできるよう気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者、家族が安心して次の生活の場へ移れるよう不安や疑問な点があればいつでも相談を受け付けること伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	将棋や園芸、散歩など一人一人の楽しみややりたいことを日頃から聞き取っている。物品や環境を整えることで続けていけるよう支援している。	絵手紙を描いてみたい、ミシンで縫い物がしたい、孫に何か作ってやりたい、書道をしたいなど、日頃から話したり聞いたりして、材料や道具を整え、続けられる工夫をしている。アセスメントシートからこれまでの暮らしぶりをひもとき把握もしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを使用し、今まで馴染んできた暮らしや関係を知る努力をしている。新たに気付いた点なども書き加え職員間で共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る力を大切に、手は出さず見守る事を心がけている。表情や言葉の変化に気を配り気付いた点は記録に残し異常がみられないか見守っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでは家族に参加してもらい思いや要望を聞き取っている。課題を家族と共有し、現状に合わせた対策をケアプランとして作成している。	センター方式から独自に作成したシートと介護日誌を基に一週間毎、月毎にモニタリングをしている。家族・本人・看護師・職員・ケアマネジャーなどで話し合い、現状に合わせた介護計画を作成している。退院時は医師の意見を参考にして、適切な介護計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや支援方法の変更については連絡ノートや申し送りで口頭で伝えることで職員間で共有できるよう心がけている。また家族への連絡も忘れず行えるようボードを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の思いで最期は家へ帰ることとなった。ケアマネや特養とも細目に連携をとり退居後はヘルパーやショートステイのサービスをスムーズに繋げている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に近くの飲食店を活用し、グループホームのことを知ってもらう協力を得ている。買物に行った時には自身で会計をすることで買物を楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を持ち、家族に協力してもらい、受診や往診をしている。また利用者の状態に合わせ受診が難しくなってきた時には負担にならないよう往診という手段も考えている。	家族の都合がつかない場合は、職員がかかりつけ医への受診を支援している。受診時は看護師から、現状や様子を書面にして情報を伝えている。医師からの指示は書面にして個別ファイルに綴じて、職員全員が周知できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	熱や血圧だけでなく活動量や食欲などにも気を配り変化に気を付けている。介護職から看護職に相談することはもちろん、スムーズな受診に繋がれるよう申し送りしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院に向け面会し病院関係者や家族から情報を得ている。受入条件を伝えていくことでスムーズな退院に繋がれるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態をみながら家族と細目に話し合いをもち最後の過ごし方を考えてきた。利用者、家族、医師と細目に連絡をとり往診や泊まってもらうなど全員で協力し看取ることができた。	重度化した場合や終末期については、看護師が中心となって、利用者、家族、医師とこまめに連絡をとって看取りをしている。看取り後には、職員からアンケートを取って反省し、急変時の研修や、医療機器の置き場所などの確認をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを基に実践することでイメージできるよう勉強会を行った。急変があった時には振り返りを行い巡視の仕方等見直せる部分は見直している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の方も交えて避難訓練を行い、防災の意識を高めている。またそれ以外でも召集訓練や避難梯子の使い方等随時行っている。	年2回、家族や住民の参加を得て昼と夜間想定での避難訓練を実施している。更に、召集訓練や避難はしごの使い方訓練も随時実施している。今年、自治会の協力を得て、大規模災害時の備蓄品の量、車いすの台数、避難所への搬送、飲み水の確保のシミュレーションを実施している。	自治会との防災協定も締結し体制も整っているが、大規模災害時の地域連携の方法や対策の詳細について、更に具体化され充実を図られることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の思いを大切にし声のトーンや言葉のかけ方に配慮している。また否定するような言葉を使わないよう気を配っている。	一人ひとりにあった声かけに配慮している。便り「なないろ」や居間などへの写真の掲示にも利用者の承諾を得てから掲示している。介護記録を作成したり目につく所に放置したりしないよう注意もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人によって聞き方を工夫し利用者が選択、希望を言いやすいよう心掛けている。選択を迫るなど慌てさせることがないよう気を配っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望がきけた時はそえるよう努力している。毎回外へ行きたい思いに応えることは難しいが、思いを受け止め行ける時に応え出来る限り利用者のペースで過ごせれるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の化粧、懐中時計や背広の着用その人が大切にしている身だしなみが続けていけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	米研ぎや汁作りなど出来ることを大切に一緒にやっている。畑で採れた野菜を使うことで話題にもなり季節を感じる機会にもなっている。	好きなものを食べられることも食事を楽しむ要因の1つと考えている。利用者の好みを聞き、副食購入の会社との献立会議で、メニューに反映できるよう話し合っている。ご飯、汁、デザートづくり、配膳、下膳は利用者と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量にムラがある方には食べれる時に食べれるもの(さつまいもやプリンなど)を提供している。また毎月の体重を観察し変動に気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔の状態によって、360度歯ブラシや口腔ケア用のジェルを使い分けている。意思の疎通が難しく歯磨きが出来ない時はお茶をのみ残渣物をへらせるようにしている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は可能な限り布パンツを使用している。排尿量に応じ薄型の紙パンツや吸収の良いパッドにするなど変更をしている。希望にて尿瓶を使用される方もいる。	可能な限りオムツを使用しない方針で布パンツで過ごしている。利用者に合った声かけで対応し、自立支援に心がけている。従来の習慣から尿器を使用する利用者があるが、自分で始末し洗浄もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスよく食事を摂って頂き細目に水分を提供している。また、ヤクルトや寒天、さつまいもなどの自然食品でお通じに繋げられるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全員の希望に沿う事は難しいが温泉よりもユニット風呂、昼より夜がいいという希望がある方には聞いて支援している。本人の思いを大切にし入浴日を変えるなど可能な範囲で思いにそえるよう心がけている。	日頃のコミュニケーションで利用者の体調を把握し、楽しい入浴となるよう支援している。夜間入浴も可能とし、長湯好きな人が多いが、好みに合わせて入浴できるよう、時間帯、風呂の種類(個浴、大浴場)を選べるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は体位変換以外必要以上のトイレ誘導を行わず安眠できるように心がけ個々の生活リズムを把握し、その方に合った休憩のとり方を大切にしている。日々の睡眠の状態、体調を観察し休める機会をつくっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜勤、深夜勤、早番の三重チェックを行うことで誤配薬、飲み忘れは減っている。個人ファイルに処方箋を綴じておくことでいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やりを日課にされている方、洗濯物を見て外に干してこなあかんねと率先して動かれる姿がある。感謝の気持ちを伝え、その方の励みややりがいに繋がるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	受診に出かけた際には外食や買い物ができるように家族の協力をえている。銀行へ行きたい、買い物へ行きたいと言われた時には家族に協力を頂いたり一緒に出掛ける支援をしている。	子どもの見守隊となって緑の帽子をかぶり日常的に散歩に出ている。また、好みの物の買物や食材の買い出しには利用者と一緒に外出している。季節の花見や小学校、保育園、毎月の事業所の行事へも参加している。	

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で買いたいものを選びお金を払うことで充実感が得られるよう支援している。その人その人に応じて見守る、金額を伝えるなどの支援をし買い物を楽しめるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時にはいつでもかけられるよう希望に応じている。また年賀状をもらうだけでなく送る機会をつくることで双方の距離が縮まるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気清浄機や加湿器の設置で不快な臭いや乾燥にならないよう配慮している。会話の中で行事の振り返りができたり季節感が出るような掲示物にしている。	カルチャーホール内には広い畳のスペースがあり、リクライニングチェア・テーブル・遊具・自販機が備えられ、憩いの場となっている。食堂や廊下には、利用者と一緒に季節の飾りや写真や書を飾っている。常夜灯や消火器などは利用者に配慮し目立たない工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い中ではあるが食事の場と憩いの場を分けている。座椅子をおいたり果物や飴を自由に食べれたり、くつろげる場所を心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや化粧箱を持ってきて頂いている。写真が好きな方は部屋に写真の本や写真が手元にあることで安心して、またゆっくり居室ですごせるよう気を配っている。	畳を敷いた居室、ハンガーラックに外出着・帽子・靴を置いた居室、アコーディオン・好みのポスター・趣味の書籍・化粧品などがある居室など、その人らしい配置で心地よい暮らしになる工夫がある。ベッドの高さも本人に合わせて転倒予防をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に表札や目印をつけたり座って家事ができるよう環境を整えている。エレベーターでの行き来が自由にできるよう声をかけている。できる力を大切に困っている時には支援できるよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福祉会		
事業所名	大東グループホーム すずらん		
所在地	岐阜県大垣市東前1丁目86番地1		
自己評価作成日	平成24年6月30日	評価結果市町村受理日	平成24年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/index.php?action=kouhyou_detai_2010_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172100832-00&Pr ef Cd=21&Versi onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年8月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用の方が、地域とのつながりを大切にしながら、安全に安心して生活が出来るように心がけている。常に話しかけられやすい関係づくりを心がけている。特に家族とは情報の共有を行い、問題解決ができるよう何度も話し合いをもち、お互いの思いが行き違わないようにしている。本体施設との協力をし、特養へ移るタイミングを考え、入所後も関わりを持てるようにしている。また、利用者と共に、苗の成長を楽しみにし、野菜収穫の喜びをあげている。花壇で育てた花を、絵の好きな方に描いていただき、ユニットに飾り話題を共有し、生活に楽しみを持てる環境を作り生活をされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業目標を分かりやすく設定し、より理念に近づけるよう自ら努力している。毎月の振り返りを行い頑張ったことを記入している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや餅つき大会を開催し、地域住民との関わりを深め繋がりを大切にしている。自治会への参加や利用者と共に近くのスーパーへ出かけるなど関わりを持てるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民等の見学を受け入れ、丁寧に説明している。カルチャーホールの使用も徐々に増え、介護予防教室の開催を続け、いきいきサロンや安井少年団、子供会や自治会、市役所等に相互理解を深めながら、解放している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者参加は勿論、地域住民の方が施設の事を良く見てくださり多くの要望等をもらっている。頂く意見はサービス向上に活かせるよう努力している。今後は色々な家族に参加していただけるような配慮をしていきたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	住民票の移動によりサービスへの問題が出たことがある。家族、市町村と連携をとり、その人らしく生活をしてもらえるよう対応を行った。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方法を家族と考えている。玄関の施錠は事務員が見守りできる時には解放している。勉強会を行い職員の意識を高め身体拘束のないケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士声を掛け合い、気持ちが煮詰まった時は交替するか、離れたりし、ストレスを貯めないようにしている。一丸となり、利用者の安全を追求しながら防止に努めている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所連絡会や情報交換会に参加し、必要な方には直ちに制度が利用できるような支援をしている。家族の今後を見据えて孫やひ孫まで声をかけたり考えていかななくてはならない方であれば橋渡しの声をかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	日頃の疑問点・不明点等長引く入院や、継続医療、重度化に伴う十分な説明の上、お互いが理解を得られるよう話し合いの機会をもっている。家族が納得できるまで話し合いをし、特に退居時を大切にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	検討項目で改善がない時や、問題については上司に報告、連絡、相談し運営推進会議で現状を話している。利用者、家族より要望を遠慮なく出して頂く為、意見箱の設置場所をかえ意見が言える環境を整えつつある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回法人アンケートを実施している。又、提案書が各部署に設置してあり出すこともできる。出た意見に対し、会議でフィードバックし運営にいかしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働ける条件をできる範囲で呑んでいる。有給はなかなか取れないが、皆と協力して業務に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修に力を入れ、日常的に学ぶことを心がけ資格取得、自己達成に努力している。受けた研修は会議で発表の場を設けている。資格取得希望者には配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会、支援会議や情報交換会に参加し、質の向上に繋げている。複数事業所連携事業では、他施設と職員交流をし、良いところを確認し合ったり、見たり聞いたりし、少しでも取り入れる努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聞き取り調査や面談時、その方の生き様を家族からも十分に聞き取りその生活を維持できるよう理解している。生き様を知る努力を重ね、人生史質問リストを作り家族にも協力を仰ぎコミュニケーションを深めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見を聞き、不明な点は理解できるように努めている。始めはコミュニケーションを大切にしながら生活が落ち着くまで、面会や電話をかけたたりお願いすることでお互い良い状態を継続できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までに関わってこられた介護支援専門員と連携し、随時対応している。出来る事分かる事を見極め、そうでない事を支援できるように心がけている。嫌な事や拒否される事は徐々に寄り添えるようにしていきたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	頼り頼られながら共に過ごしている。ユニットに居場所が出来るような配慮をしている。どこへ行きたいか何を食べたいか等、利用者と決めたりしている。利用者同士励まし合ったり助け合う姿は学ぶべき姿である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスには必ず家族に参加して頂けるよう声をかけている。認知症の理解を深め、アンケートや家族会を実施し処遇面や職員に対し何か意見がないか聞き、気兼ねなく言ってもらえる関係を保っていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで関わってこられた関係を断ち切らないように友達の面会をして頂くことを大切にしている。家族の協力を仰ぎ行きつけの美容院や、自宅への外出、旦那様へ会いに行くことを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士仲間意識が高く、支え合い関わりを深めている。立ったら危ないよ等と声をかけてくれる事で危険回避出来ている。主人公の利用者がいきいき過ごせるよう職員は黒子として支援するよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その時の状態で一番良い方法を家族と話し合っている。退所後も医療機関との連携をとり、関わりを必要とされている家族には相談にのり付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今出来ていることや趣味の絵などやりたいこと思っている事に対し出来るよう物品や環境の設定を行い、続ける努力をしている。利用者の思いを大切にし居場所が出来よう対応に心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集で、生活歴や馴染みの関係の把握をしている。家族と会話し交流を深める努力をし、新たな気付きも含め職員間でセンター方式シートや連絡ノート等活用し共有できるよう努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方なりに生活して頂ける様目配り気配りに努めている。当日のリーダーを決め事故のない様現状把握に努め見守りの大切さを理解し、口を出さない手を出さない目を離さない関わりが持てるよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスには家族にも参加して頂き、要望や希望不明な点を聞き取り、ケアプランを作成している。ひやりハットや事故を日々の課題とし共有している。利用者に合った支援方法を考え対策をし業務に励んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	再発防止、家族連携を欠かさず行えるよう1日2回全体での申し送りを行い、情報も共有できるよう、連絡ノートを活用し伝わるように業務改善している。各ユニットにホワイトボードを設け共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本体施設へ、法話、華道、化粧療法へ参加し、交流している。家族や利用者の希望や状況を判断しながら、スムーズに利用者へ繋げたり柔軟に対応している。満床の時は他事業所の紹介連携をしている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の保育園、小学校の児童と交流を持ちたり書道や紙芝居のボランティアの協力や、近くのスーパーや飲食店を活用する事の協力を得ている。近隣の方と夏祭りや餅つき大会を通し認知症の理解を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々に主治医を持ち家族協力のもと受診、往診を受けている。かかりつけ医との連携、情報を共有し、医師の指示が正しく守られるよう周知徹底をしている。医療機関との連携を深めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態の変化、異常に気付けるよう注意、観察している。感染症や緊急時にはスムーズに対応できるよう勉強会やマニュアル作りをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来る限り面会に訪れ状態を把握し早期の退院に向けて働きかけている。医師と家族の面談時には職員も参加し相談を行っている。退院後の生活についても納得できるまで話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、利用者、医師と何度も話し合いの場を持ち方針を共有し支援している。一人ひとり今後どのように最期を送るのか納得いくまで話し合いながら職員が一丸となり取り組み、日々利用者や家族の思いを知る努力をしその人らしい週末を考慮している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	委員会を中心に事故、防災の緊急時マニュアルを作り、勉強会を開き対策強化に努めている。疑問等はその日のうちに解決しようと努力している、職員全員の熟知には、今後も努力していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	委員会を中心に年2回昼夜想定問わず訓練をしている。利用者、家族、地域の方の協力も得て、安全に避難できる方法を日々考えている。廊下に物を置かない努力、非常階段の掃除、異常がないかチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの方の人格を受け入れ思いやりのある声かけを行っている。 個人情報に関しては、他の方の目に付く所で書いたり、カルテを置きっぱなしにしないよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方が話しかけやすいように、日頃から信頼関係を築き、その方の思いを理解し、納得していただけるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の出来ること、出来ない事を見極め、利用者の意思も尊重し、ケアプランに沿って穏やかに楽しい時が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力を得られる方には、馴染みの理美容院を利用させていただいている。又、2ヶ月に一度訪問理髪を利用している。外出される時には着替、化粧等声をかけ一人ひとりの個性を活かせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	男性の方も一緒に具材を切ったり味付けをしていただき、合った食器を選ぶなどし、又食器洗い、拭き、片付けしていただいている。好評なもの改善が必要なものは給食会議で栄養士の方と意見を交換している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量、噛む力、飲み込む状態を注意している。体重に変化が見られた時には家族とも相談し利用者が食べられるものを用意してもらったり、購入したりと最後まで利用者の意向を尊重している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ支援している。義歯の方は外して保清、口腔内に残渣物がなくなるまでうがいや、歯磨きをして頂いている。就寝時は義歯洗浄し、ハミングットや舌苔用ブラシを個々に合わせ使用している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや尿量から日中夜間帯のパット、紙パンツの種類を使い分けている。排便のサインは早く気付き対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、さつまいも、バナナ等の自然食品で通便につなげている。お手伝いや廊下の往復を働きかけ、身体を動かすよう個々に対応便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いすることなく体調を把握し安全に入ってもらえるよう配慮をしている。全員の希望は難しいが夜間、回数等の幅を広げている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠ができなかった時には、その状況に応じ、遅めの起床や、休息をし対応している。夜間は体位交換以外必要以上のトイレ誘導を行わず安眠できるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別内服が可能なように医療連携を図っている。どのような薬を飲んでいるのか把握し、新しい処方箋をカルテに綴じ変更を確認している。服薬しづらい方には飲みやすい方法を考え対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	力を発揮できる所で進んで手伝いを下さっている。又、趣味の絵に集中し取り組まれる事もある。花壇でさいた花をいけ、四季を感じて頂けるような配慮をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の行事に加えご家族の協力を得て日々の外出や大垣祭りの見物にも出かけている。季節の花を見に外出の機会を多くし、気分転換をしている。又、テラスへ出て気分転換を行えるようにしている。利用者の行きたい所の情報を取り入れる努力をしている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材や、日用品を一緒に買いに行き、金銭管理のできるよう買物時は、各自の財布を持ち楽しめるよう配慮をしている。好きな物を選んだり買物を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あらかじめ、家族様の都合の良い時間を聞き、利用者が電話をかけたいと言うときはかけられるよう配慮している。電話をかけることで利用者が安心できる姿もあり、ご家族にも協力を得ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物を季節に合わせてたり、花壇に咲いた花をかざったりと季節感を採り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室であったり、カルチャーホールの畳に座り、外に咲いている花を見てのんびり会話をして過ごされている。窓辺にもたれながら、野菜、花の成長を楽しみに過ごすことができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵であったり写真等、好きな物を居室内に置いたり、ハンガーラックや椅子、使い慣れた物を置くことで生活空間ができ、居心地良く生活ができている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を配慮しつつ、一人ひとりできることを把握し、力を発揮できるように支援している。できるだけ自立した生活が送れるよう付き添いを必要に応じ行い、生活が送れるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福祉会		
事業所名	大東グループホーム なでしこ		
所在地	岐阜県大垣市東前1丁目86番地1		
自己評価作成日	平成24年6月30日	評価結果市町村受理日	平成24年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/index.php?action=kouhyou_detai_2010_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172100832-00&Pr_efCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年8月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々に支えられ、事業所が成り立っていくよう理念に掲げ、日々努力をしている。利用者一人一人の要望に近づけるよう、生活を共にし関わる中で、お互いを認め協働する事で安心でき、何でも話せる間柄を目指している。認知症への理解をスタッフには勿論、家族様にも働きかけている。認知症の症状と身体機能の重度化は徐々に緩和され、まとまった外出も組み合わせ今後は活かせると良いと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基にスタッフの考えや意見を参考にし行動指針や事業目標をたて、定期的に見直せるようチャレンジシートを提供している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、餅つき大会を開催し地域住民との繋がりを築いている。地域の書道教室の先生を招き、地域の方とも合同で行っている。今後はゴミ拾いや挨拶運動など、外へと発信出来るよう取り組みたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	カルチャーホールを利用し介護予防教室の開催、キッズコーナーを設け地域への開放、子供会のポストを置き関わりを築いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族の参加、地域関係者の方より意見交換や現状の報告、施設への要望を頂きサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護世帯の受け入れ、市の担当の方とも顔みしりとなれる関わりができた。相談の機会を持てるよう働きかけたい。運営推進会議に市の職員も出席して頂き連携を続けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議、勉強会で拘束しないケアの取り組みを学んでいる。一階へ降りたい時は可能な限り付き添い支援している。時に、言葉で行動を制限してしまう事があり、反省すべき所である。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士声をかけ合い疲れてないか口調は大丈夫か等、気をかけている。上手なストレス発散法や元気である為にはどうしたらいいのかの研修に行き皆にも伝え実践している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所連絡会や情報交換会に参加し必要な方には直ちに制度が利用できるような働きかけをしている。家族の今後も見据え孫やひ孫まで声をかけ身寄りのない深刻な方には橋渡しとなれるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	予期のない契約の解約があり、情報の収集に苦労したが、良い経験とし今後に生かしたい。不明な点や疑問、長引く入院や重度化に伴う十分な説明をし、お互いが理解を得られるよう話し合いの機会を持っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で現状を報告し、利用者、家族より要望を遠慮なく意見を頂いている。日常の電話の際や面会時を大切にし意見等を交換し支障や問題がある時は相談している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人より、スタッフの思い意向等を盛り込みアンケート実施をしている。意識が同じ方向で統一できるよう個々での話し合い勉強会などで理解できる機会を作り、反映できるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に応じ認め合いモチベーションが下がっている時など修復しスタッフの長所を生かし業務に臨めるよう働きかけ、責任ある事を任せたり、働きやすい環境を目標としている。必要時には、上司に報告相談している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの経験や能力に応じ外部内部の研修に取り組んでいる。特に外部研修においては、他スタッフにも伝え共に向上できるよう、会議の場で発表できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会、支援会議や情報交換会に参加し質の向上を目指している。複数事業所連携事業では良い事は取り入れられるよう励んでいる。法人内でも交流を持てるよう行事参加に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が何を望み困っているかを一番に考え対応している。不安や心配事を一つ一つ解決に取り組めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に話しを聞き、一緒に最善方法を考え出している。理解を得るのが難しい時もあるが、途中でなげ出さない姿勢で関わっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が良い方法か考え実現できるように提案し説明している。又かワランスでじっくり話せる機会を設け今後の方向性や将来の事も含め対応している。不明瞭な事のないよう展開し努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時に相談や昔の教話を話して頂け励みとなったり、逆に利用者が1人では難しい所を支援させて頂いている。お互いが助け合い協調し生活が送れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	良い関わりが築けるよう、現状の様子、報告をしてお互いが共有し分かり合えるよう努め必要時は協力を依頼し助けて頂いている。面会時は、挨拶に加え、一言話しコミュニケーション作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いきつけの美容院やスーパー、思い出の場所等家族様にも協力頂き行けるよう働きかけている。又この近辺で利用者が望まれれば、スタッフも付き添えるよう頑張っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で小さな社会を築き上げ自然な形で生活が出来ている お互いの役割や関わりの中で支え合いが出来ている。時に小さな事で口論となる部分もあるが、暗い雰囲気とならないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気軽に立ち寄り相談し合える関係を心掛け、信頼関係作りを日頃より行っている。退居後も医療機関とも連絡をとり、必要とされている家族には、随時対応できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思を伝えられる方は、都度話し合いをし把握に努めている。そうでない方は、日頃の様子、状態をより組みとれるよう関わり観察している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面談で、生活の様子暮らしぶりを聞き取り スタッフ間で共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の読み込み、体調変化やヒヤリ事項等を申し送りスタッフが周知できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週1度のモニタリングにて評価、新たな課題の有無を検討している。カンファレンスにて話し合った要望や課題を計画に組み入れ作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日2回の申し送りで他ユニットの方の状態把握に努め、夜間の業務にも備えている。職員同士情報の交換が行えるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や利用者の希望や状況に応じ関われるよう努めている。判断した結果、場合によりスムーズな利用につなげたり、柔軟に対応している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を十分に把握していないが、新しい店に出向いたり新しい名所を探したり取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の主治医を持ち、家族協力のもと受診や往診を受けている。情報が良好に伝わるよう手紙を添え、家族様より渡して頂けるよう取り組んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身共に変化に心がけ、小さな事でも気づき看護師に伝え相談している。働く人も、健康で勤めるようストレスを貯めず関わられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け何回か面会したり、話し合いを働きかけている。退院後の生活についても納得できるまで話を重ね、良い方法を導き出せるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じ話し合いの場を作っている。繰り返し行う事で一番良い方法に辿り着けるよう取り組んでいる。スタッフの意識を高め合えるよう改善も必要かと思う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のバイタル測定や表情、体調の変化に気を配り異常の早期発見に努めている。会議や事例検討会にて、実際に体験し見直す事でレベルUPできるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方、ご家族も含め、訓練を行っている。実践で使える方法を模索検討、反省をし改善策を見つけている。勉強会でも取り上げ意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみやすい言葉使いや敬語を使い分け関わられるようにしている。お通じの確認も耳元で尋ねる等配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の作業中の何気ない会話や利用者さん同士でのやり取りの中でヒントを得たり関わっている。話しやすい雰囲気や信頼関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活リズムやペースを知り日常を送って頂いている。部屋にいる時間が長くなったり 眠っている事が増えたり等と小さな変化にも気を配り、職員間でも共通の意識とし関わっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ちょっとした外出や外食等、声かけ一緒に選んだり、相談したりと個々に合わせ対応している。普段より好きな色や柄等を聞いたり、ご家族に協力頂き理解に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	具材切り、味付け担当など役割分担がほぼ出来ている。配膳もてきぱき行え、皆が活躍できる場を提供し協力している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の増減に気を配り食べる姿勢や方法、飲み込み具合等も観察し対応している。体重変化にも気を付け、補食や代替えなど組み合わせ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行えるよう促している。個々に合わせブラシを選び必要に応じて磨きを行い口臭予防に努めている。意思疎通の難しい方は、無理にはせず、時間をおいたり出来る時に一工程づつ関わっている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせ、排泄パターンを掴み対応している。かぶれや汚染の度合いに応じ誘導やオムツ交換を行い保清やその方に合った対応を常に考えている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべくバランスのとれた食事を促し日常の掃除や洗濯干し等の作業を通し体を動かしたり、自主的に運動をし健康維持されている。又、牛乳ヤクルト等の飲用、バナナの摂取にてコントロール出来るよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜に入りたい方、個浴を望まれる方、回数など個々に応じ対応している。その方の体力に合わせて長時間とならないよう働きかけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活リズム作りは必要だが、個々の体調により休息を適宜行っている。又、活動量を増やす事で夜の安眠を促したりハーブ茶やホットミルク等を提供し入眠を促してもいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に何を内服しているか把握に努め、定期的に薬の説明書のさし替えもしている。飲みやすい方法や、形状の変更等随時検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じ力を発揮できる所で自分の役割とし 励んでいる。利用者間の距離が密接している為 折り合いが悪い事や逆に仲の良い者同士で出掛け気分を変えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の行事に加え、保育園の運動会に参加したり、家族の協力を得て、市役所まで大垣祭りへ出かけている。地域の見守りeyeに所属し出かけたたり、買物、花見等も希望に応じ働きかけている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何かを買いたい、ほしいとの様子が伺える時や訴えに対し、可能な限り出掛けられるよう取り組んでいる。支払も個々に応じ行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外からの電話の取次ぎも行い、直接話せるようにしている。かけたい時も同様にどこまで出来るか IADLに合わせ支援させて頂き、気分良く過ごせるよう働きかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で作った絵や詩などを居室入口付近に展示したり、気に入ったアイテムを飾り個別化を図っている。夜間灯りや赤い表示のある電気関係を見て混乱される方もおり、消灯できるよう周知を徹底している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他室への出入りを自由に行き来できるよう制限をせず、見守り必要に応じ介入できるよう努めている。気心しれる方で体の具合の悪い時の見舞いや、1人で部屋で過ごして頂いたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス、座椅子、机等もこちらで使って頂き、変化の少なく安心できるよう努めている。TVの有無、畳に布団を敷き休むスタイル等、個々に合わせ部屋作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の理解が出来るよう目で確認でき行動を制限しないよう努めている。状態が低下しても戸内の設備が整えてあり、安心できる環境となっている。		